

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900074		
法人名	株式会社 いわい		
事業所名	グループホームにこにこひがしやま 《なののはな》		
所在地	岩手県一関市東山町長坂字北磐井里187番地3		
自己評価作成日	平成25年7月26日	評価結果市町村受理日	平成25年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2013_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0390900074-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3-19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成25年8月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・あたりまえに行われていたことを、あたりまえに行えるよう支援しています。 ・地域、家族との関係を大切にして行事、見守り隊、夏祭り、畑作業などを通じて交流し、入居者が住み慣れた環境で安心して暮らせるよう支援しています。 ・その人の心の中にある「ふるさと」をずっと大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、JR大船渡線「祝鼻溪駅」から北方向に自家用車で約7分で行ける位置にある。なだらかな南向きの斜面に建てられ、陽射しも部屋の隅々まで入り込み、いつも四季の変化を眺めながらゆったりと過ごしている。民家も近くに点在し、交流しやすい環境にある。地域住民に、2ヶ月に1回発行している広報「にこにこだより」を回覧板と一緒に回覧したり、老人クラブ員と一緒に小学生の見守り隊に参加したり、道路の清掃活動をしたり、町民農園で野菜を栽培している。また、老人クラブの定例会に参加しお茶のお手伝いをしたり、中学生の体験学習(夏休み)を引き受けたり、地域の祭りに参加する等、地域住民と日常的に交流している。自己評価については、事前に記入用紙を全職員に配布し、それを計画作成担当者が整理し、更に全職員で話しあってまとめている。全職員で共有をはかりながらケアに繋ごうとする姿勢が伺える。また、管理職と職員との信頼関係が高く、学習意欲が旺盛であり、常に話し合いをもちながら利用者の思いや意向に沿えるような支援に取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関とスタッフルームに理念を掲示し、全員で共有し実践につなげている。	グループ企業としての理念を基に、事業所ではキャッツフレーズを作成し、玄関やスタッフルームに掲示して共有に努めている。また、月例のミーティングに社長も出席し、全職員で意見を出し合いながら、より良いケアを目指して取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学生の下校見守り隊に参加したり、老人クラブの方と一緒に草刈りをしている。又、広報誌や老人クラブ定例会参加時“お茶のみ”のお誘いをしている。	老人クラブとの交流や小学生の下校見守り、運動会、地域の祭り、敬老会への参加、野菜作り等を通して地域との交流に努めている。広報は、自治会の協力をいただき回覧板と一緒に回覧し、地域住民にホームの状況を伝えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人クラブ定例会参加時、認知症についての話をし、地域で支える関係の理解を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度開催し、活動状況の報告を行い、頂いた意見をサービス向上に役立てている。	区長、ボランティア連絡協議会長、東山支所保健福祉課職員、利用者と家族の各代表者、施設側から、管理者、計画作成担当者、ユニットリーダーが構成員となり奇数月に会議が開かれている。議題によっては関係者に参加を頂き、ご意見を頂くことにしている。行事のもち方や玄関のチャイムについてのご意見が運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者に運営推進会議に参加して頂き、取り組み状況を伝えている。又、困難事例の相談等日頃から連携をとっている。	運営推進会議には、市職員に出席してもらいサービスの状況や行事の取り組みを伝えご意見を頂いている。日常的にもいろいろな手続きのことや困難事例などについて電話や訪問を通して相談するなど、密接な連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を開催し、職員全員が理解し実践している。	身体拘束マニュアルを作成し、これをお手本に全職員の参加を考慮して勤務時間外の研修会を行い、全職員で身体拘束の内容と弊害について学習し、拘束をしないケアに取り組んでいる。今年の4月から事業所のドアをオートロックにしている。	安全を考慮してのオートロックと思われるが、もう一度、職員の見守りを基本にしながら、開放に向けたケアの実践を目指し、検討されることに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を開催し、職員全員が理解し実践している。又、職員間でも気をつけながらケアにあたっている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームにこにこひがしやま(なのほな)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を通じ理解を深めている。活用にあたっては利用者が該当するか状況を把握しながら行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面談の際、本人、家族へ説明を行い理解を得ている。又、入居後も都度応じており理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートを実施し結果を運営推進会議で公表すると共に、職員にも展開し運営に反映させている。又、日頃から意見、要望が言いやすい環境づくりに努めている。	事業所訪問や家族会、アンケート調査などにより、家族からの意見や要望の把握に努めている。利用者については、毎日の生活の中で意見や要望を汲み取るよう努めている。把握したことは、運営推進会議にも報告し、意見を頂きながら運営に反映させている。予防注射の行う場所や外出時の身だしなみ等についての要望が出され、改善されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングに社長も参加している。職員の意見・要望に対し素早く対応している。	ミーティングには、職員の話す場面を多く取るように配慮したり、社長もミーティングに出席し、要望を聞くことに努めている。また、個人面談は、年2回行われ、職員からの要望を聞き、環境づくりに努めている。要望も受け入れられ改善されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己の資格取得や通信教育の受講に対し、補助金制度を設けており、向上心をもって取り組めるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は「育て・育てられる職場づくり」を事業所の基本方針とし、リーダーや計画作成担当者が中心となり自己啓発に努めている。その内容を内部研修やOJTという形で展開している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県南地区のグループホーム協会定例会やグループ内のグループホーム部会に参加し意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に訪問、面談調査を行い状態、状況の把握に努めている。その情報を職員全員で共有し安心して暮らして頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とも利用開始前に面談を行い、意向の把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネや、関係者と連携を図りながら「その時」必要なサービスに繋がられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは一緒に行い、教えたり教えられたりとお互い支え合いながら取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や行事の参加を促し、本人と時間を共有出来るよう支援している。又、受診も基本は家族対応としており本人を支えているという実感につながっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでは自宅に連れて帰ることができない利用者様も、職員の支援により行くことが出来ている。	若いときから利用している理・美容院に行き続けている利用者がある。ふるさと訪問やお墓参り、買い物、魚釣り、自宅訪問、年賀状の代筆など、利用者やご家族に聞きながら今までのつながりが継続できるように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同郷・親類等の関係性を把握した上で、職員が会話に繋がるよう調整役を務めている。利用者同士が共同で作業が出来る環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退居となった場合でも退院後困らないよう支援している。又、他施設入所となった場合には訪問することもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	都度希望を伺ったり、日常の会話で希望を引き出せるよう努めている。	毎日の生活の中で声を掛け、思いや意向について問いかけたり、入浴や食事、散歩時などに会話を多く交わすように心がけている。食べ物のことや行きたい場所、服装や身だしなみ、孫に会いに行くこと、買い物等興味があるようなことについて話しかけ、思っていることなど聞くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族、関係者と面談を行い把握に努めている。普段の会話から聞き出せることもあるので、日常の会話を大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それまでの習慣を尊重しながら、出来る事の発見に努め残存機能を活用して頂けるような支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向の把握に努めると共に、日々の記録、カンファレンスでの職員の意見をもとに現状に即したケアプランを作成している。	利用者や家族から聞いたことを基にし、職員から一人ひとりの利用者の様子を聞き取り、補足しながら作成している。作成したプランは家族に説明し、確認印を頂いている。基本的には、3ヶ月ごとに評価し見直しを行っているが、身体の状態に変化が見られたときは、その都度見直しを行いケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を基に日々送りで情報を共有し実践に活かしている。記録をケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じ、成年後見制度、権利擁護の支援をしている。突発的に天皇陛下のお見送りに出かけたり、併設のデイサービスの行事に参加することもある。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームにこにこひがしやま(なのほな)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校の運動会や祭り・芸能発表会等に出かけている。小学生の下校見守り隊に参加し地域の中で力を発揮できるよう支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの方がそれまでのかかりつけ医が主治医となっている。受診の際は主治医に手紙で様子を伝え、支持を受けている。	入居後も医療機関の変更を勧めたりせず、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、家族と協力しながら通院介助を行っている。受診の際は、本人の情報を手紙で医師に伝え、結果は、主治医から連絡をいただき、家族に伝えるなど適切な医療受診を受けられるように努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の気づきを週1回訪問の看護師に伝え、支持を受けている。訪問日以外でも変化があった時は連絡し相談している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者や家族と密に連携をとり、安心して治療に専念できるよう支援している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる		本人や家族の考えていることをよく聞いて、その意向に沿えるように職員皆で共有を図りながら指針に沿ったケアに取り組んでいる。入居時には、本人や家族に重度化や終末期に向けた対応について説明した上で、同意書を頂いている。状況に変化が生じたときはその都度、医師と相談しながら対応することが確認されている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署職員の講師でAEDや応急手当の研修を実施し、実践力を身に付けている。緊急時の対応については、内部研修やマニュアルで知識を身に付けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に様々な災害を想定し訓練を実施している。地域の方々からも防災協力隊として協力を頂き、避難訓練にも参加して頂いている。	マニュアルに基づいて年2回消防署や地域防災協力隊の参加を頂き、利用者と一緒に避難訓練や避難経路の確認等を行っている。災害に備えて非常用食料や飲料水・防寒具、発電機・毛布・灯油などが準備されており、点検も行っている。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	禁句マニュアルを見直し、尊厳を大事にしたケアに努めている。	利用者への言葉かけについて、本人の気持ちを大切に考えて、さりげないケアに心がけたり、自分の考えで決めて行動できるように努めている。利用者は「さん」付けでよんでいる。また、駄目とか、座って、とか利用者の尊厳を損なうような言葉を使わないよう禁句マニュアルを見直し、プライバシーを損ねないケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	よく話しに耳を傾け、自己決定出来るよう支援している。表出が困難な方には、行動や表情からサインを読み取るようにしたり、選択出来るよう対応を工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の場でもある為概ねの決まりごとはあるが、個々の生活リズム、ペースに配慮し対応するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向を尊重しつつ、清潔や身だしなみに配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは個々の能力に応じ準備から片付けまで毎日一緒に行っている。個々の好みを把握したり、旬の食材を取り入れたり、郷土料理を取り入れ食事が楽しくなるよう努めている。	その日のメニューは、利用者の意向を聞きながら郷土料理や旬の食材などを考えて担当職員が作成している。利用者は、野菜を切ったり、片付けや下膳など職員と一緒にしている。畑で、栽培した野菜を食材に使ったり、郷土料理を取り入れたりして楽しく食事ができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量に就いては個々に把握し、不足した際は補食を提供したりして必要な栄養が確保できるよう支援している。個々の能力に応じた形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に応じた支援をしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームにこにこひがしやま(なのほな)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握に努め、失禁の減少やトイレで排泄出来るよう時間誘導を行っている。	自立者は1、2名で大部分の利用者は、援助を必要とすることから排泄チェック表を使用し、時間を見ながら誘導することによって失敗を少なくし、トイレで出来るよう支援に努めている。ポータブルトイレを使用している利用者もいるが、夜間でもトイレへ誘導するように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	原因や及ぼす影響を理解した上で、個々の状態に合わせ予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は概ねの決まりはあるが、事前に希望を把握したり、日々希望を確認し柔軟に対応している。	入浴は、毎日利用者から希望時間を聞きながら柔軟に対応している。入浴の時間帯は、午前8時から夕方5時で、一人ずつ入浴している。入浴前にバイタルチェックを行い、入浴の可否の判断をしている。最低でも週2回以上は入浴するような支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人ひとりの薬の目的や副作用、用法、用量を把握し、個々の能力に合わせて支援している。服薬による症状の変化を見逃さないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、力が発揮できるようケアプランに取り入れ支援している。趣味や嗜好品等も把握し、張り合いや楽しみごとに繋げられるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望に沿って買物、散歩の支援を行っている。月に1～2回程度ドライブにも出かけている。地域の行事には積極的に参加してえいる。	一人ひとりの希望に応じて散歩や買い物に出かけたり、外食に出かけている。また、月に2回程度は全員で狛鼻溪や道の駅などにドライブに出かけている。地域のお祭りや行事には積極的に出かけ地域の一員としての意識を持てるように努めている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームにこにこひがしやま(なのほな)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物の際は本人に支払して頂く事で、本人の満足感に繋がっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話を取り継いだり、希望があれば本人が電話できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物が施設然としている為、家庭的な雰囲気作りや、季節に合った装飾にする等工夫している。照明や室温にも配慮している。	室内は明るく、静かで、いつも四季の変化を眺めながら暮らしている。居間には、テーブルや椅子が置かれ、食事をしたり、歓談やゲームをしたり、テレビを観賞したりして楽しく過ごせるように工夫している。畳を敷いた小上がりの場所もあり横になって休むこともできる。部屋には、季節の花や行事の写真が飾られ、新聞や図書館から借りた本があって家庭的である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、畳などを設置し、思い思いの場所で過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持って来て頂くよう、働きかけを行っている。家族との写真を飾るなどして安心して暮らせるよう配慮している。	居室には、ベット、クローゼット、布団や筆筒などが置かれている。ご家族の位牌、神棚、写真を備え付けており、それぞれが居心地よく過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ等案内札を設置し、出来るだけ自立した生活が出来るよう配慮している。		